平成28年度　　**教科名[美術]**　　中15　　練馬区立光が丘第一中学校

内容別･観点別の分析　（様式2）

	内容別結果分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
1年	・基本的な形を描くデッサンでは、光と影の関係性を捉え、立体的な絵を描くことができた。 ・色彩の学習では、色についての知識をしっかりと学ぶことができた。	・鉛筆の線を立体の面に沿って描くように指導したが、うまくできなかった生徒が多かった。また、力の加減ができず、自然な陰影を描けない生徒がいた。	・光と影の関係を捉えながら描くことができる生徒は多いが、鉛筆の使い方がうまくできていないため、自然な表現ができない生徒がいた。今後も機会を見ながら、繰り返し練習をさせ、基本的な技能を身に付けさせるようにする。
2年	・レタリングの学習では、明朝体、ゴシック体の特徴を理解し、形を正確に描くことができた。また、レタリングを学び、基礎を身に付けた後に絵文字の作成に取り組むことができた。	・ポスターカラーを用いて絵を描いたが、色を重ねずに一色で塗ろうとする生徒が多かった。色を重ねるよう指導したら、深みのある絵を描くことができた。筆を効果的に使うことができていない生徒が多かった。	・明朝体の縦画と横画の太さのバランスがとれない生徒が多かった。正しい手順で描いていない生徒がいたため、正確な手順で描くように指導する。絵文字の作成では、ポスターカラーで様々な色を重ねて描くことができた。
3年	・木彫鏡の制作では、彫刻刀の使い方を理解し、主に浮き彫りの技法を用いて立体的な表現をすることができた。 ・修学旅行前には、仏像について学習し、学んだ知識を活かしながら仏像や文化財を鑑賞することができた。	・デザインが細かすぎてしまい、彫ることができなくなるなど、立体的なイメージをもってアイデアスケッチをすることができなかった。 ・仏像について学び、京都や奈良で実物を目の前にして、興味深く鑑賞することができた。	・彫刻刀を安全に正確に使うことはできているが、絵柄が重なりあっている所など、どこを彫ったらいいのかわからなくなってしまう生徒がおり、立体的なイメージをもって作業に取り組むことができていなかった。

指導方法の課題分析と具体的な授業改善策及び補充学習等の計画（様式３）

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な指導計画
1年	・鉛筆の使い方（線の描き方、力の加減）がうまくできていない生徒が多いため、引き続き鉛筆による作品制作に取り組み、鉛筆の使い方の基本を指導する必要がある。 ・生徒が意欲的に取り組む授業になるように心掛ける。	・デッサンの授業をするときや鉛筆を使って作品をつくる際にスケッチブックを使って、力の入れ具合や手の動かし方を段階をおって指導する。 ・達成感をもたせるため、良い点を認め、褒める。	・基礎的技能を習得させ、スケッチブックを活用し、繰り返し練習させる。 ・発想や構想を練る時間と技術を身に付ける時間とのバランスをとる。
2年	・「ムラなくはみ出さずに塗る」ことは１年次に習得したが、ぼかしやドライブラシなど、筆の使い方を工夫することによって様々な表現ができることをもっと指導する必要がある。	・机間指導だけではなく、授業者が実演をしてみせるなど、生徒にイメージをもって取り組ませる指導を行う。 ・リサイクル用の画用紙などを使って、筆の使い方を変えながら、繰り返し練習させる。	・基礎的技能の定着を図り、基礎的な作業に十分な時間をかける。そのためにも余裕をもった計画をたてるよう心掛ける。 ・発想を考える時間と技術を学ぶ時間とのバランスをとる。
3年	・切り出し刀の使い方が正確にできていない生徒が多かったため、指導に時間をかける必要がある。 ・立体的なイメージをもつことができるように、導入の授業でしっかりと説明する必要がある。	・机間指導を徹底し、彫刻刀の使い方が間違っている生徒に指導をする。 ・導入の授業の際に、黒板に図を描いて説明するなど、指導方法を工夫する。	・既習事項を活用し応用できるよう、作業に十分な時間をかける。必要に応じて、前年度の技能習得の内容を繰り返し余裕をもった計画をたてるよう心掛ける。 ・授業時数の少ない中で、生徒に時間配分や作業スピードを意識させ、授業に取り組ませる。